

	ページ
アイサワ工業(株).....	75, 87
青木あすなる建設(株).....	75, 87
あおみ建設(株).....	75
(株)浅沼組.....	75
(株)新井組.....	75
(株)安藤・間.....	44, 75, 87
岩田地崎建設(株).....	75
梅林建設(株).....	75
(株)大林組.....	75, 87
(株)大本組.....	75, 87, 98
(株)奥村組.....	75, 87, 97, 117
鹿島建設(株).....	75, 76, 98, 99
株木建設(株).....	75, 87
(株)クボタ.....	75
(株)熊谷組.....	61, 65, 75, 87
(株)鴻池組.....	75, 98
五洋建設(株).....	75
佐藤工業(株).....	68, 75
三幸建設工業(株).....	75
清水建設(株).....	75, 98, 99
大成建設(株).....	75
大日本土木(株).....	75
大豊建設(株).....	75
(株)竹中土木.....	75, 87
TSUCHIYA(株).....	75
鉄建建設(株).....	75
東急建設(株).....	49, 54, 75, 87, 98
東洋建設(株).....	75, 97, 98
戸田建設(株).....	75
飛鳥建設(株).....	75
西松建設(株).....	75
日東河川工業(株).....	75, 87
日特建設(株).....	75
日本基礎技術(株).....	75
日本国土開発(株).....	75, 102, 114
(株)ピーエス三菱.....	75
(株)フジタ.....	75
(株)北陽.....	75
(株)本間組.....	75
前田建設工業(株).....	75, 84, 85, 87, 94, 95
松尾建設(株).....	75
三井住友建設(株).....	75, 102
みらい建設工業(株).....	67, 75, 111
りんかい日産建設(株).....	75, 87
若葉建設(株).....	75

土地改良

第314号

令和3年7月15日 発行

編集者／発行所

一般社団法人 土地改良建設協会

〒105-0004 東京都港区新橋5丁目34-4

農業土木会館

TEL 03-3434-5961

FAX 03-3434-1006

http://www.dokaikyo.or.jp/

インタビュー及び取材記事等は編集を加えており、文責は当協会にあります。また、農林水産省職員の投稿文の内容や意見は、執筆者個人に属し、同省の公式見解を示すものではありません。

デザイン・印刷 株式会社ひとみ

本誌からの許可無き転載・複製を禁じます。

くろすおーばー

CROSSOVER

石田朋靖宇都宮大学学長の メッセージに込めていきたい

教え子の一人として「石田朋靖宇都宮大学学長に聞く」をととても懐かしく拝見しました。

飲み会の話しも出てきましたが、常に対話を通して打ち解けていく石田先生らしさは当時のまま。つながりを大事にされ、誰からも信頼されるお人柄が、地元へ愛される大学を作りあげたのだと思います。

「土地改良の仕事に誇りを持ってほしい」とのメッセージに込えられるよう、農業土木技術者としてのプライドを持って、これからも地域をデザインしていく所存です。

(宮城県 50代男性 地方公務員)

会誌「土地改良」に目を通し、 組織力の意味合いを痛感してほしい

東日本大震災から10年の特集記事を拝読しました。どうしても災対室長として対応した平成7年の阪神淡路大震災のことが思い浮かびます。当時、我々は農業土木組織の力が試されているとの思いで必死に対応しました。東日本大震災では民主党政権が天の試練を受けることとなりました。政権の対応には不満が残りますが、役人はよく頑張ったなと思います。

閑話休題が全てを語ってくれています。ほんとうに良い記録が残ることになりました。現職の皆さんがぜひ土地改良に目を通して頂き、組織力の意味合いを痛感して欲しいと切に思います。

(東京都 70代男性 会社員)

3名の県幹部のお話に圧倒されました

「東日本大震災からの十年」の特集は、いずれも読み応えのある記事でした。特に現地で震災を直接経験し、直後から復旧に直接従事された3名の県幹部の方のお話では、それぞれ当事者だから語ることのできる迫力溢れる内容に圧倒されました。

一方、東京で復興の指揮にあたった復興庁について大臣と参事官という異なる

立場から当時の苦労を振り返られたお二人のお話は、復興庁の内実を鮮明に物語っておられ、こちらも大変興味深く読ませていただきました。

さらに除染という言葉はよく耳にしていますが、前例のない特殊な仕事に如何に取り組まれたかを平易な語り口で説明された「除染事始め」では、除染がどれほど困難な仕事か理解出来ました。そして農水省をはじめ土地改良に携わる多くの人が、様々な場所で異なる立場で直接間接に協力し震災復興に貢献されたことがよくわかりました。

(東京都 50代女性 区役所勤務)

平野元復興大臣の 「原発は日本列島に不適」は重い言葉

東日本大震災特集ありがとうございます。

東日本大震災から10年の特集記事に直接携わられた方の言葉に接するのはこれが初めてですが、復旧復興に尽された皆様から多くのことを学ばせていただきました。平野元復興大臣の「私としては、原発は日本列島には不適と思っています。」という言葉に重たく受け止めました。

現地で5年間除染事業に従事された狩俣茂雄氏が退任の日に副町長から贈られた「私たちは戦友ですね」という言葉も胸に響きました。

編集者のご努力に感謝いたします。
(東京都 60代 会社員)

閑話休題は「東日本大震災からの十年」 の総括そのもの

閑話休題「農業土木技術者に共有されるもの」は、第313号の特集「東日本大震災からの十年」の総括そのものであったと思います。私の職場にも震災の年、全国から延べ200名もの人が駆け付けてくれました。地元を離れ、慣れない環境の中、農業土木ならではの地元で足をつけ、共に災害復旧事業に取り組んでくれました。仕事はみんなで悩み考え、一段落するとみんなで喜びを分かち合った。中には10年たった今でも連絡を取り合う人もいます。まさに「農業土木技術者の絆は極めて強固であり、それ無しには今日の復興は語れない」でした。

(宮城県 50代男性 地方公務員)

本誌「土地改良」へのご意見、ご感想をお待ちしております。

官製はがき又はメールにて、本号の記事の中で面白かったもの、興味深かったものを5点以内で順に表題名をお書きいただくとともに、ご意見、ご感想を200字程度でおまとめ下さい。また、住所、氏名、性別、年齢、職業、勤務先、電話番号をお書き下さい(掲載の際には、都道府県名、性別、年齢、職業までを表記させていただきます。また、文意を変えない範囲で、当方の判断で文章の量を調整させていただきます)。

ご感想等を掲載させていただいた方には、毎回もれなく全国各地の名品を贈らせていただきます。次回掲載分については、「新米で作ったきりたんぼセット」をご用意しております。
[8月末日締切]

宛て先

〒105-0004 港区新橋5-34-4

土地改良建設協会「くろすおーばー」係

メールアドレス jigyo@dokaikyo.or.jp

PRESENT

新米で作った
きりたんぼセット

